外国ルーツ児童・生徒の
日本語教育支援を考える集い

外国ルーツの子どもが増加する中、地域の小学校・中学校での支援不足や、高校生になってからも特に学習言語が獲得されていないことなどが問題になっています。本集いでは、前半に児童生徒の日本語学習に関連するエビデンスに基づいた最新の研究について学び、後半は行政や教育・研究の現場で外国ルーツ児童生徒と関わる立場にあるパネリストが報告とディスカッションを行います。本集いでの様々な学びが問題解決への道を開く一歩となることを願います。

お申込みはQRコードより受け付けています。

参加無料

日　時　2025年2月15日（土）
13時30分～17時（受付開始13時）

場　所　大阪樟蔭女子大学芳情館4階J401教室
（東大阪市菱屋西4-2-26）

対　象　関西の日本語教師、日本語支援の関係者の方、興味のある方どなたでも

https://forms.gle/XiYSxS78XNcdcQCHA

プログラム

1　開会あいさつ：小森道彦（大阪樟蔭女子大学副学長）
2　研究発表：谷内更紗（立命館大学言語教育情報研究科）
「小学校国語教科書における外来語使用の変容
―2014年検定教科書と2024年検定教科書を比較して―」
深石葉子（立命館大学文学研究科）
「外国ルーツ高校生兄弟の日本語作文の縦断的分析―作文判定基準試案による評価」
3　基調講演：石川慎一郎（神戸大学教授）
「L1の子どもは日本語の語彙をどのように習得しているのか？
―外国ルーツ児童生徒の日本語支援のベースラインを探る―」
4　パネルディスカッション「教育現場における外国ルーツ児童・生徒の実情」
司会：有田節子（立命館大学教授、大阪樟蔭女子大学名誉教授）
パネリスト：音田恵子（東大阪市教委・人権教育室）
樋口尊子（大阪樟蔭女子大学非常勤講師）
荒木聖加（大阪府立大手前高校定時制の課程教諭・
大阪府立学校人権教育研究会）
米田有沙（大阪市立小学校教諭）
小森道彦（大阪樟蔭女子大学副学長）

総合司会：松本理美（大阪樟蔭女子大学准教授）

【共催】
関西こどもの日本語支援者ネットワーク（KNN）
大阪樟蔭女子大学学芸学部国際英語学科
立命館大学国際言語文化研究所

基調講演：石川慎一郎・神戸大学教授
「L1の子どもは日本語の語彙をどのように習得しているのか？
外国ルーツ児童生徒の日本語支援のベースラインを探る－」

「子どものころから日本で暮らしていれば、日本語ぐらいは自然にできるようになるはずだ…」という周囲の思い込みとは裏腹に、学校現場において日本語支援が必要な外国ルーツ児童生徒の数は急増しており、適切な言語支援の体制の構築が求められています。ただ、当該児童生徒の中には、話し言葉でのやりとりには（表面上）不自由していないケースもあり、彼ら・彼女らの抱える日本語の問題を特定するためには、同年代の日本語話者の産出データとの対照が不可欠になります。この点に関しては、日本語話者高校生・外国ルーツ高校生・留学生の三者の作文を比較・分析した松本（2021）などの先駆的研究が存在しますが、こうした比較研究の参照点となるべきL1の子どもの日本語コーパスに関しては、これまで、一般公開されたものがほとんど存在していませんでした。

本講演では、小学校から大学までの全13学年、合計700人の日本人児童・生徒・学生による共通課題作文を収集した「小中高大生による日本語絵描写ストーリーライティングコーパス（JASWRIC）」（石川,2022；石川，forthcoming）の概要を紹介し、L1の子どもが日本語の語彙をどのように習得しているのか、海外のL2学習者の日本語語彙習得とはどこが違うのか、JASWRICから得られた知見を外国ルーツ児童生徒の日本語支援にどう生かせるかをご一緒に考えていきたいと思っています。

講演者紹介

神戸市生まれ。神戸大学文学部卒。神戸大学文学研究科、岡山大学文化科学研究科修了。博士（文学）。現在、神戸大学教授（大学教育推進機構／国際文化学研究科／数理・データサイエンスセンター）。
専門は応用言語学、コーパス言語学ほか。
主著にThe ICNALE Guide（Routledge, 2023）、『ベーシック応用言語学（2版）』（ひつじ書房、2023）、『ベーシックコーパス言語学（2版）』（ひつじ書房、2021）ほか。
英語コーパス学会会長、計量国語学会副会長、文化庁文化審議会国語分科会委員、同言語資源小委員会副主査、文部科学省日本語教師養成・研修推進拠点整備事業（近畿ブロック）責任者、ほかを歴任。

【共催】
関西こどもの日本語支援者ネットワーク（KNN）
大阪樟蔭女子大学学芸学部国際英語学科
立命館大学国際言語文化研究所

お申し込みはこちら！